



Publishing house: 2-19-32Moriyama Kanazawa
JodoShinsyu Jhokoji Phone&Fax076-252-4922
www.jhokoji.net/ info@jhokoji.net 2021.03.01

時機相應の教え

鈴木大拙館館長 木村 宣彰

皆さん、こんにちは。先程ご紹介いただきました木村でございます。どうぞよろしくお願い致します。昨日、一昨日まで越後の高田という所へ行っておりました。安居という行事があります。インドには雨季と乾季があります。日本は春夏秋冬があつて四季が分かれているのですが、インドは雨の降る時期と降らない時期がはっきり分かれている。雨が降るときは雨季、雨季の事を安居と言ふんですよ。

お釈迦様は生きものを殺したらいかんと教えられましたよね。そこ

ろが雨季になると、雨が降るでしょう。そうすると虫が出てくるわけです。晴れてカラカラだったら花も咲かないし、植物も芽吹かないんですが、雨が降ったら喜んで植物が沸いてくる。動物が這い出してくる。その上を走り回ったら、虫達を潰しますよね。あるいは、植物の芽を踏み潰してしまふ。そうしたらせっかくのその命を奪う事になる。お釈迦様は常々、生き物の命を奪ってはいけないとおっしゃっているのに、元気な若いお弟子さんの何人かが走り回っている。そしたらお坊さん

ではない在家の人がね、お釈迦様、あなたはいつも殺生をしちやいけなとおっしゃっているのに、あなたのお弟子さんは、走り回って虫を潰している。せっかく芽が出てきたのに踏み倒してしまっている、あれは殺生ではないですかと。するとお釈迦様は、それはその通りだと。それならこの三ヶ月間、雨季の間は動き回らないでお勉強しましょう、という事になったんですよ。インドのカレンダーで言うと、四月十五日から七月十五日までの三ヶ月間、ずっと勉強をする。雨季の三ヶ月間以外この時期は全国を周ってみんなに教えを広める。一箇所に留まって勉強するから安居と呼ぶんです。三ヶ月間勉強して最後の日が七月十五日、これを自恣日と言います。その安居に参加した人がみんな集まって自分の心の中のやましい事や沸いてきた煩惱を反省するんです。みんなの前でこんな事を思っていて恥づかしいと反省する。

ね、『正信偈』の「道綽決聖道難證」、あの道綽禪師の『安樂集』という本の講義をさせて頂いた。本当は三ヶ月間かかるのを二日間でぐっと縮めて。それを終えて浄光寺さんの「お太子さん」に寄せて頂きました。

劫濁

テレビを見たり新聞を読んだりしますとね、世の中で色々な事が起こっていますよね。この間も、千葉県野田でお父さんとお母さんに虐待されたまだ小さな女の子さんが亡くなった。私はどうしてあんな事が起こるのか、色々考えているけれどなかなか分からない。でもはっきりしている事は人間というものには業縁があれば何をしでかすのか分からないということ。最初からそんな酷い人ではなかったんですけど、様々な縁にあえばそうなるんでね。

親鸞聖人が、末法の時代になったらどうなるかという事を御和讃で書いていらっしやる。

劫濁のときうつるには

有情ようやく身小なり

五濁悪邪まさるゆえ

毒蛇・悪竜のごとくなり

八百年前にこういう時代が来ますよと御和讃に書いてある。どういふ御和讃かというとな、劫濁、見濁、煩惱濁、衆生濁、命濁、時代が色々悪くなつてくるとか、人間の煩惱が盛んになってくると、五つの濁りが増えてくる。今の世の中、仏様がいらつしやらない。二千五百年前に仏様は亡くなられて今は無仏の時。五濁の世の中。そこで一体どう生きてらいいのか？大変な問題です。

「劫濁のときうつるには」、大昔は原発の事故も起こらないんやけど、原発が出来れば事故が起こってくる。様々な事が時代の濁り、あるいは人間自身の煩惱が多くなってくる。「有情ようやく」、有情のといふのは私たちの事です、衆生ともいいますね。身体が小さくなると心も小さくなる。本当は身体のことより心の方がだんだん小さくなって見が狭くなってくる。私が私が、俺

が俺がとみんな考えている。みんなが助け合つて生きるというのが無くなっている。人間が小さくなっている。そして「五濁悪邪」、悪い邪な事が勝る、いい事より悪い事ばかり考えてしまうようにだんだんなつてくるといふんですよ。そして「毒蛇」、悪い蛇、毒を持った蛇。さらに「悪竜」、毒を持った蛇が悪い竜の様なつてしまう。この御和讃を読んだ時私は、ああ自分の子供を殺める、水をかけたり、食べ物を与えなかつたり、立つておれと言つたりどうした事だと思つたんですよ。この御和讃の通りかなと。

『逝きし世の面影』、こういう本があります。今、明治から百五十年経っているでしょう。明治時代に外国から日本に来た人達が沢山いる。鉄道がないからこうやって作るんだ、医学はこうして勉強するんですよ、法律はこうするんですよ、日本に来て新しい国を作るために色々な事を教えてくれた人が沢山いた。その人たちが日本に来て見た事について色々感想を書いている。私は

千葉県野田の事件の事を思つた時、ふつと頭の中でこの本を思い出したんですよ。その人達が日本に来て一番関心した事は、日本は子供の天国だ、叱られている子供は一人もいない事だと。みんなドイツやアメリカから来たり、イギリスやフランスから来て新しい国を作る為に知識を伝えている人達でしょう。だから色々な人達がいますよ。色々な人達が皆、日本は子供の楽園だ。子供の天国だと書いている。日本の子供た



ちは外へ出て朝から晩まで友達と遊び回っている。道は子供達が占領して、それを叱る親はいない、子供と一緒に遊んでいる。町は完全に子供達のものだ。

モースという人がいるんですけどね、日本へ来て、貝塚を発見した人。その人が『JAPAN DAY BY DAY』という日記を書いた。その中にこういう事が書いてあった。私は日本が子供の天国である事を信じている。世界中を周ってきたけれど、日本ほど子供が親切に取り扱われ、そして子供の為に深い注意が払われている国は一つもない。親はみんな子供の事を大事にしている。子供を殴つたり叱つたりしている人は一人もいない。日本は子供の天国だ。外国から来た人が日本へ来てそう感じている訳ですよ。ニコニコしているところから判断すると、子供達は朝から晩まで幸せなんだ。

またイザベラ・バードという人は、これほど子供が喜んでるのを見て大人達がみんな喜んでる、こんな国見た事ない。自分の子供を虐待するような人は一人もいない。しかも

自分の子供だけでなく、他人の子供にもそれなりの愛情を注いでいる。

日本は子供の天国だと。百五十年前です。明治のお雇い外国人はみんなびっくりしている訳です。あるいは、フランスから来た人は、日本の子供はどんなにやんちゃをしても叱られたり殴って懲らしめられている様子を見た事がない。すなわち日本の子供達は自然の子である。彼らは十分に楽しんでる。そういう事をずっと書いてある。

それが今は虐待してはいけませんよと法律まで作ろうと言っているんですよ。わずか百年余りの間にどうしてこうなったのか。私はびっくり仰天しておるんです。刑罰もなく、咎められる事もなく、体罰もなく、叱られることもない。日本の子供達は本当に幸せだ。日本は子供の樂園であり、子供の天国である。それがいつからこう変わったのか。おそらく高度経済成長になってみんな忙しくなったんでしょうね。お金が大事になってきたんでしょうね。子供より他に大事なものが出てきたん

でしょう。

世界中どこ行っても子供の天国、子供の樂園はないですよ。それがどうしてあんな事件が起こるのか。私は不思議でしょうがないですね。それで私は生物学の先生に尋ねてみたんですよ。どうしてあんな事するんですか、そもそも生き物というのはみんな子育てをするんじゃないんですか。子供を大事に育てるのはいんですか、と尋ねたら、これもまたびっくりした。地球上に生き物はどれ位いるか。どれだけいるか分からなくていうんですよ。実際のところ。三千万か二千万か分からない。名前も分からないものも未だにいる。滅んでいくのもたくさんある。でも地球上に最大三千万位の生き物がいるだろう。

みんな子育てするんでしょう？子供を大事にするんでしょう？とその先生に聞いたら、いや、そんなことないと。みんな生き物は産みっぱなしだ、というんですよ。これもまたびっくりしましたね。親はみんな子供を育てるものかと思ったら、その

数千万いるその中で名前が付いているのが百五十万種位いる。人間が名前を付けた。これは犬さんですよ、これは豚さんですよ、これは蛇さんですよ、カエルさんですよと名付けていく。これが百五十万種くらいある。それらもみんな子育てをするかというかとそうでもない。

オタマジャクシの横でカエルのお母さんが子育てをしているのを見た事ありますか？そういえばそんなの見た事ないな。産みっぱなしですよ、とおっしゃるんですよ。なんと冷たいなと思つてね。川を上つていく鮭、卵産んだらそれで寿命終わりますよ。自分が産んだものの子育てしてませんよ。

ではちゃんと子育てしているのはどういうんですか？と尋ねるとそれは哺乳類。もう一つは卵を産む鳥類だと。数千万種いる生き物の中でそういう風に子育てをしている生き物はどれ位ですか？と聞いたら、哺乳類はだいたい五千種、鳥さんは一万種位。だから鳥類と哺乳類合わせると一萬五千種位の生き物がいる。でも百五十万種とか三千万種の生き物

からみれば一割にも満たない。人間はもちろん子育てをする。皆さんも子育てなさった。人間の子育てはそういう生き物の中で特別だ。自分の子供だけではない。おじいちゃんやおばあちゃん達も子育てに協力する。年取った兄弟が小さな子の育てをする。隣近所みんなが子供の成長を願つて子育てをする。自分の子供以外も育てているのは人類だけです。人間はそこまで進化してきた訳です。生物学者はね、それは進化だとおっしゃる。

でも私はね、それは進化ではなく他力だと思わなければ。自ずからなる大きな力があって人間はここまで進歩してきた。皆さんも自分の子供を子育てして、そして今度は子供の子供をまた育てていらつしやる訳でしょう。これは人間のとても尊い姿だ。でもああいう事件が起こつてくる。これ一体なんだ。親鸞聖人が『歎異抄』の中で「さるべき業縁のもよおせば、いかなふるまいもすべし」と書かれている。また、さきほどの御和讃の「有情やうやく身小な

り、身体がだんだん弱ってきただけでなくて、人間の大きな心もだんだん弱ってきている。劣ってきて、だんだん穢れが起こってきて、悪い邪な考えが起こってきて、毒を持った蛇だとか悪い竜ごとくなり、そういう風になるんだなという事を考えさせられた訳ですよ。だからこそ仏法が大事になってくる。

末法

親鸞聖人は、「高僧和讃」の一番最後の所に、インドからの高僧のお名前をずっと書いていらつしやる。インドの龍樹菩薩と天親菩薩、それから震旦（中国）の曇鸞大師、道綽禪師、善導大師。『正信偈』で皆さんお名前をお聞きになつていますよね。そして和朝、我が国日本、恵心僧都源信、去年が亡くなつてから千年と一年ほどだったんです。源信と聞いて私がいつも思い出すのは、源信のお母さん。偉いなあと思つて。源信が天皇陛下より褒美を貰つた。お母さんに喜んで貰おうと思つ

てそれを持って行つた。お母さんどう言つたか、「後の世を渡す橋とぞ思いしに世渡る僧となるぞ悲しき」あなたは比叡山に登つて勉強している。それは後の世を導く為。つまり千年後の私達みんなに心の救いを説くお坊さんになつてほしいと思つていたのに、そんな褒美を貰つて喜んで嬉しいと思うお坊さんになつて欲しくなかつた、とお母さん。その言葉聞いてまた源信は比叡山へ行つて勉強なさる訳です。

日本のお坊さんが書かれた本で中国に渡つて中国の人が読んだのは聖徳太子様の『勝鬘経義疏』という本と『往生要集』を書かれた源信、このお二人です。日本から渡つた人が中国の天台山というところに行つたら、聖徳太子の『勝鬘経義疏』があつて、それを中国のお坊さんが注釈しとつた。そんなものが中国に渡つているとは知らなかつたし、ましてや中国の人が注釈を書いているとは知らなかつた。明空という名前のお坊さんが聖徳太子様の『三経義疏』の中の『勝鬘経義疏私鈔』に対して『勝鬘経義疏私鈔』という本を書い

た。びつくりした。

そしてもう一人。源空（法然上人）。この七人が七高僧というでしょう。親鸞聖人はこの御和讃の所に「以上七人」と書かれて、その後に「高僧和讃」の最後の所に「聖徳太子」と書かれておる。聖徳太子はお坊さんではないから、ちよつとお坊さんと分けて書いてある。

聖徳太子様は一月一日の元旦の生まれ。仏様が亡くなつて後千五百二十一年後に当たる。親鸞聖人は計算されたんですよ。なんでそんなことをお書きになつたのか。千五百二十一年、要するに世の中が末法になつたという事です。

お釈迦様が亡くなつてからの五百年が正法の時代。この正法の時代はどういう時代かという、教えもあるし、その教えに従つて一生懸命修行する人もいるし、悟りをひらくこともできる。この正法の時代というのは教、行、証が揃っている時代。それがお釈迦様が亡くなつてから五百年続くというんです。

その次が像法の時代。これが千年。五百年と千年が過ぎたら、次は

末法の時代になる。像法の時代の時代はどんな時代かというと、教と行があるけれど、なかなか悟りをひらくことができない。教えがあつて教えの通り実践する人がいるけれど、証が得られない。

この千年を過ぎると、末法になる。末法の時代になると以後万年続く。教があるだけで、行もない、証も得られない。教えはあるけど、なかなかその通り実行して悟りをひらく人がいない時代ですよ。

聖徳太子様が敏達元年の正月に誕生なされた。この年は、仏滅後一千五百二十一年に当たる。という事は正に末法の時代に入つて二十一年経つた。ということが高僧和讃に書かれているわけです。要するに親鸞聖人は聖徳太子様は、丁度こういう時代に我が国に現れて頂いた教主である、それがお太子さんであると。つまり聖徳太子様は末法の時代の我が国に似つかわしい仏教を説いてくださったと親鸞聖人は受け止めておられる訳ですよ。

自力と他力

インドの仏教は、教えの通り一生

懸命修行をして悟りをひらく。私た

ち衆生が仏様になる仏教。でも聖徳

太子の説かれた仏教はそれとは方向

がちよつと違う。仏さんの方が私た

ちの所に近づいてきてくれて私達に

お慈悲をかけて頂く。方向が全く違

う。私達は親鸞聖人や法然上人の後

の仏教だけを聞いているもんだか

ら、それ以前の聖道門の仏教、ある

いは自力の仏教というのをどうい

うものかあまり考えた事がない訳です

よ。それはもう大変な行が必要なん

です。それは仏様になるまで、成仏

するまでに全部で五十二の段階があ

るといふ。要するに階段を一段一段

登る。我々は仏様のお力でエレベ

ーターに乗ってすつと行く様なもので

す。全然違う。

一番最初は十信。二番目が十住。

三番目が十行。四番目が十回向。五

番目が十地。六番目が等覚。七番目

が妙覚。聖徳太子が憲法の中で凡夫

とおっしゃっているでしょう。凡夫

というとダメな人間のように思っ

ですけど、この階段が無ければ凡夫
というものがどんなものか分からな
い。

十信。一番最初に信心を置いてい

る。そしてだんだん進んで行く。十

住、十行、十回向、この三つを三賢、

要するに賢い立派な人だと。ここま

でくると、不退転。どんな事があつ

ても悪い事はしない、真っ直ぐ仏様

の所に行く。ここへ来るとね、聖者

ですわ。等覚というのは仏様と同じ。

妙覚というのは仏さん。仏果を得る。

こういう段階があるんです。

十信は下凡、下の凡夫。十住、十

行、十回向は内凡。まだこの辺だつ

たらどうなるかわからんですよ。

縁があればどうなるか分からないわ

けです。でもこのまま修行が続くと

すつと成仏まで行ってしまう。ここ

まで到達すると喜びが湧いてくる。

歓喜。でもここまで行く間に五十二

の段階がある。その階段にすら到達

しないのが底下の凡夫。仏法に遇つ

たからといってまた何か縁があれ

ば間違つた事をしてしまう。

親鸞聖人は『正信偈』で

「凡聖逆謗齋廻入」、凡夫も聖者も、

他力の力によってみんな救われる
と。お念仏を称える人はみんな一気
にここまで行くんですよと。等覚、

弥勒と等しい、如来と等しくなる。

そうじゃなかったら、菩提心をおこ

して修行するしかない。一体、どれ

だけの時間がかかるか。

劫。四十里四方の大きな岩を百年

に一回くらい天から薄絹の羽衣を

ぴーつと触れて、そして四十里四方

の岩が全部なくなる。それでも一劫

という時間が終わらない。そんな長

い時間の一億倍が億劫。そんな長い

時間修行するのは嫌だと、こうなる。

これが億劫です。本当は修行をして

努力をして進んでいかなければなら

ないんやけど、そんな時間かかるの

ならもう嫌や、億劫やと、ここから

億劫という言葉が来ている。

でもね、一億倍とかそんなもので

はなくてもつと長い時間がかかる。

阿僧祇劫と言ったら数えられない数

字です。一劫の一億倍が億劫ですよ。

一劫の阿僧祇劫倍が無量大。さら

に三阿僧祇劫、そんなのどれも成仏

できませんよ。底下の凡夫が、ずつ

と修行を進んでいって十信まで二阿

僧祇劫かかる。最後にまた仏様まで
また三阿僧祇劫。それはとてもじゃ
ないが間に合いません。しかも末法

の時代の我々がそんな修行できませ

ん。戒律一つ守れません。それで親

鸞聖人は書いた。如来さまのお力で

もつて私達は等覚まで行けると。如

来ではないけれど、如来に等しい。

ではお太子さんはどういう教えを説

いたか。当然、末法の時代に私達が

修めることができるような、仏教を

説いて頂いた。それが親鸞聖人が和

国の教主とおっしゃっている背景な

んです。

く さ む す び

ゴリラと人間

去年の秋に、京都大学の学長の

山極壽一さんと会ってお茶飲んでい

た。山極先生が教えてくれた。人間

にはなぜ白目があるのか？ゴリラや

チンパンジーと違わせる為に作った

訳ではないですよ。聖徳太子様が大事に

された和というものを大事にする

ために白目が出来た。凄い事では

ないですか。山極先生はゴリラさん

(5)

いますか? 「和」と書いてあります。先程の我々の白目は何のためにできたか? 和です。白目があれば、ああ喜んでいゝな、と共同体が出来る。十七条の憲法の最初は「和を以て貴しとなす」。逆らうことなく みんな仲良くしましょうと。

その後どう書かれたか、「人皆党あり」と。この人と友達だけど、あの人は友達ではない。同じ〇〇政党だと言っても派閥ができていゝ。みんなこういゝもの作るんですよ。こういゝっている訳ですね。これは先ほど言った凡夫の社会だから、業縁によって仲間ができる訳です。派閥ができる。憲法に和が大事だとお説きになりながら、同時に「人皆党あり。また達る者少なし。是をもつて、あるいは君父に順わず」。隣近所と喧嘩することも起こるだろう。普通の偉い人だったら仲良くしましょう、と言うだけでお終いですよ。でもね、人間はみんなそういゝもんですよ、とおっしゃって頂いていゝるところに太子の人間深い理解がある。

その後には、上の人が柔らかかく和を持って接し、下の者が睦み合え

事柄はみんな上手くいきますよとある。白目を見たらこの人喜んでいゝのかどうかわかるじゃないですか。そうして人類の社会の共同体というものは作られていゝ。さらにね、「達る者少なし」と書いてある。やつぱり派閥をつくれれば全体を見通す事が出来ない。悟りを得るつて仏さんでしよう。仏様にはなれませんとおっしゃっている。では一体この末法の時代、私達はどうするのか、という事が次の問題になつてくる訳ですね。

第十条に、「忿を絶ち、瞋を棄てて」と難しい言葉が書いてあるんですよ。要するに怒りを棄てましょうと書いてある。人と意見が違うからといゝつて、仲間ではないからと怒つてはいけませんよ。人にはみんなそれぞれ的心があるんですよ。これ凄いい事だと思ひます。みんな一人一人腹立つけれど、相手の立場にたつたら相手にも人の心があるんですよ。その事を「人皆心有り」、それぞれ思ひがありますよと。あの人が正しいと言へば私は反対だと言ひし、私がこうだと言へばまたあの人は反対

だと言ひし、そういうものだ。でもどれが正しいかを人間が定められるかどうか、ここですよ。親鸞聖人も『歎異抄』でおっしゃつていゝでしよう。「善悪のふたつ総じてもつて存知せざるなり」と。これが絶対正しい、これが絶対悪いとは決められない。親鸞聖人は聖徳太子様から学んでいゝらつしやる。これが是、これが非と誰も定められないのではないか。みんな心があるんだ。本当にそんなことを思つたらね、世の中諍いはほとんどなくなりますよ。だから聖徳太子様はそうおっしゃつておる。

あの孫悟空と一緒にインドへ行つた玄奘三蔵は、凡夫という言葉はやめましようと言つていゝんですよ。インドの言葉でプリタクジャナ。みんな凡夫と言つていたんだけど、正確に言つたら、「異生」。異生とはそれぞれある業によつて生まれる世界が違ひますよと。学校だつてね、経済学の学部へ行つたら経済の学者になる。Aという会社に勤めればAという会社の様な生き方になる。そうして生き方によつてその生まれる世界



が異なつてくる。これが異生。だからみんなそれぞれ業縁によつていゝんな世界で色んな事をやつていゝ。だから一律に凡夫といゝわなないで異生といゝましよう。

先程言つた修行で十地の位まで行つた人達は道を間違わなから異生がないんですよ。みんな仏さんになるんですよ。間違ひなく。大学でもみんな入学して頑張ろうと思つていゝるけれど、一生懸命勉強した人は四年で卒業するし、怠けていゝれば留年する方へ生まれる訳です。みんな違ひ。これが凡夫といゝものですよ。

聖徳太子様は八人の言葉を聞き分

ける立派な人だけれど、みんなともに凡夫なんだ。そこに立って考えれば俺が正しい、お前が間違っているという事がなくなるだろうという事を第十条の所でおっしゃっている訳です。お互いに話をしましょうと。

ではどうするのか。仏教の行は様々あります。でも聖徳太子様はこうおっしゃっている。学問よりも実際に言う方が大事だと。理屈が分かってからやるというより、やってみるといふ事。行善。善を行う。みんな難しい仏教の学問をやるうと思うけれど、それよりも善をやりましょうよ。お掃除をするのも善です

し、人の肩もむのも善、あるいは人に勉強を教えるのも善、仏法を教えるのも善、みんな善。善を行ずる、行善という事が大事。

ではその行善をやる事の一番根本は何かということをお徳太子様は教えていらつしやる。憲法第一条に、「篤く三宝を敬え」、仏法に帰依しましょうと。その仏法に帰依する。南無阿弥陀仏と阿弥陀仏に帰依しお念仏申す。これこそが善の一番根本ですよ。そこから始まるんですよ

と。だとすれば親鸞聖人のお念仏を称えましょうという教えは、まさに聖徳太子様の仏教とびつたり一致するではないですか。憲法第一条では和という事が大事ですよ。でも人みな色々ありますよ。また十条では仲間を作る、排除する。でも一つ一つの小さな善をやりましょうよ。そういう心を起せるのは何か。仏さんに帰依する南無という事が大事やと。南無阿弥陀仏というお念仏が一番の善という事になる。それが末法の時代の凡夫という私達の機が行う一番のいい教えではないか。

今日、『三経義疏』を持ってきたんですよ。仏法の教えのといものは時代が変わって風俗が変わっても変わらないものだ。だからお経というものは常に何処へいっても変わらない。これが一番大事なんだ。一番の抛り所になるんだ、という事が書いてある。さらに読むと、大悲が倦むことはない。インドの人達は自分が悟りをひらいて仏になるんだと言っているんだけど、聖徳太子様は、仏様の方が私達の方に一生懸命近づいてき

て下さっているんだと。その大悲は決して倦むことはない。これで疲れたという事はない。

親鸞聖人も「大悲無倦常照我」(「正信偈」)と。この『三経義疏』と全く同じ。末法の時代の私達に合う仏教は仏様の側から私達に限りなく近づいてくれる仏教です。まさに親鸞聖人の教えは聖徳太子様のお示された方向性に従っている仏教ですよ。だからこそ親鸞聖人は和国の教主と仰せになったんでしょう。

また私が現生正定聚に至ったのはみんな聖徳太子様のおかげだとも仰せになる。「正像末和讃」に書いてある。

聖徳皇のあわれみて
仏智不思議の誓願に
すすめいれしめたまいてぞ
住生定聚の身となれる

要するに仏様になる事を約束された現生正定聚に至ったのは聖徳太子の哀れみだ。仏様からの大悲は倦むことがないと身をもって受け取っていらつしやる。頭の中で考えた理屈

ではなくて、本当に感謝して御和讃を作った。だから正に末法の時代の機に合う仏教というものはどういものかを親鸞聖人は聖徳太子様から学ばれたんですよ。そしてその事に感謝を込めて「和国の教主」とおっしゃられるのです。南無阿弥陀仏を申す、その南無の気持ちがとても大事だ、これが聖徳太子様がお示し頂いている教えです。本日の尊いご縁に感謝いたします。どうもありがとうございました。

《編集後記》

◇本文は平成三十一年三月二十一日、浄光寺「お太子さん」の法話録であります。洵に勝手ながら紙片の都合上、割愛、編集させていただきます。

行事のご案内

「お太子さん」

日・令和三年三月二十日(祝)
時・午後一時

「きこまいけ」(聞法会)

毎月二十八日・午後二時
※冬休みをいただいていたましたが、三月二十八日より再開いたします。